

柏の景気情報（平成19年11月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成19年11月分）

○ 調査期間 : 平成19年11月20日 ~ 11月26日

○ 調査対象 : 柏市内113事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	113	82	72.6%
建設	20	17	85.0%
製造	26	21	80.8%
卸・小売	43	27	62.8%
サービス	24	17	70.8%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成19年11月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは3ヶ月ぶりに悪化、再びマイナス30台へ ▶

○11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.7(前月水準▲22.5)となり、マイナス幅が▲9.2ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、卸小売業▲40.7(同▲40.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲35.2(同▲15.3)、製造業▲23.8(同▲5.5)、建設業▲23.5(同▲15.3)である。

【建設業】では、引き続き「建築確認・構造計算書の確認の遅れの為に全体の工程を狂わしている」(一般工事業)といった建築確認申請の影響の声や、「ガソリンの値上げにより経費増大、それに伴い仕入単価等も値上がりしている」ので、これからの利益確保は難しい問題である」(住宅設備工事業)といった仕入・コスト上昇の声が多く寄せられている。その他「民間工事物件は出て来ているが予算・積算の差異が大きい」(一般工事業)との声や、「年末にかけての調整を慎重にすべきところだが、各現場とも遅れが出ていて集中しそうな気配」(板金工事業)といった年末工事集中の声が寄せられている。

【製造業】では、「ユニットハウスの出荷は建築確認遅れの影響を一部受けている」(建設・建築用金属製品製造業)といった建築確認申請の影響の声や、「原材料、燃料等のコストアップは避けられないが何とか一部価格転嫁で対応」(鉄粉業)といった仕入・コスト上昇の声が多く寄せられた。また、「展示会に出店したが、前回と比較して展示会入場者総数は同じであるが小間入場者は増え顧客の反応も良かった」(機械・同部品製造業)、「センターの増改築を計画していたが、近隣の研究施設を取得することとなり、現在その効果的な活用方法を検討中」(ロボット製造業)といったコメントも寄せられている。

【卸小売業】では、「初旬は気温が高めだったことから、主力の婦人服を中心に靴業種などの動きが鈍かったが、2週目以降は入店客数が2桁伸長する日もあり、売上高も伸びをみせた」(各種商品小売業)との好調の声も寄せられているが、「度重なる原油高騰」(燃料小売業)との声や、「都内に話題を集める商業施設が次々とオープンしており、その影響が懸念される」(百貨店)、「今月より売場縮小のため、売上高減少で苦戦が続く」(書籍小売業)といった厳しい声も寄せられている。また、「12月に入ると、早々に冬物バーゲンを開始させる量販店もあり、利益の確保が難しくなっている」(各種商品小売業)といったバーゲン早期化の声や、「食品の偽造発覚が収まらないと安定した売上は望めない」(食肉小売業)といった食品偽装の声も寄せられた。その他、「最近の寒気で野菜の出回りが良く、微増傾向。果実はみかん・りんごを中心に前年より入荷が増している。食味はバラツキの状況で小玉傾向、単価安も予想される」(食料卸売業)、「11月30日に全館完成グランドオープン」(総合スーパー)とのコメントが寄せられている。

【サービス業】では、「11月に入りクリスマスの予約が増加」(レストラン)、「会議・展示会苦戦、宴会順調。スポーツ団体宿泊あり」(ホテル)との声の一方、「七五三のお客様で土日祝日は忙しいが平日の売上が少ない」(日本料理)、「飲食関係全体が落ちている」(喫茶店)、「人手不足問題、それにかかる広告費用、賃金の値上げ、現在いる人のベースアップでの引き止め、鯉節・燃料の値上げ。厳しい状況が続いて来るので個人店の商売のやりにくさを感じている」(そば店)、「新規の開業者が増加、競争激化」(獣医業)といった厳しい声の他、「最近注文において、個々の好みが多様になった」(居酒屋)との声も寄せられている。

○仕入・コスト上昇

各業種から、「材料の値上がり、ガソリンの値上がり、売上の減少、大変厳しい状況が続いている」(電気工事業)、「SUS材料関係の市況が下がってきた割には簡単に納入単価下がらない」(機械・同部品製造業)、「11月から価格改正があり、今月は資金繰りが少し良でも仕入価格は毎月上昇し続けるため、ぬか喜びにすぎない」(燃料小売業)、「多岐に渡って原材料が値上げ」(菓子小売業)との厳しい声や、「対ユーロの円相場や原油価格の上昇による仕入単価への影響が出始めており、この先3ヶ月ではやや顕著になる可能性がある」(百貨店)といった先行きを懸念する声も寄せられている。

○価格転嫁

仕入コスト上昇に伴い、「原材料、燃料等のコストアップは避けられないが何とか一部価格転嫁で対応」(鉄粉業)といった声も寄せられているが、「原油価格高騰による原材料の上昇が続いているが製品価格に転嫁できない」(工業用ゴム製品製造業)、「燃料、包装資材の高騰に伴い食品加工品が11月より各メーカーが一斉に値上げ、中小企業は販売価格に転嫁できず採算が悪化」(食肉小売業)、「原材料高騰を理由にメーカーの値上げ圧力は依然として続き、売値に転嫁できず苦慮している。販売業界は売上低迷から脱却できずにいる」(塗料卸売業)といった価格転嫁に対応できない深刻な声も多く寄せられた。

○建築確認申請問題

「エレベータ業界は引き続き建築確認の厳格化、基準法改正により連続して低下。変化なし」(設備工事業)、「現在は建築基準法改正前の仕事が続いているが、これから改正の影響が大きくなる」(生コンクリート製造業)との声が建設・製造業から寄せられている。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	▲21.7	▲21.4	▲5.5	▲32.0	▲25.0
7月	▲27.1	▲38.4	▲5.5	▲34.6	▲30.7
8月	▲31.9	▲35.7	▲5.5	▲44.4	▲38.4
9月	▲20.8	▲21.4	▲5.8	▲40.7	±0.0
10月	▲22.5	▲15.3	▲5.5	▲40.7	▲15.3
11月	▲31.7	▲23.5	▲23.8	▲40.7	▲35.2
見通し	▲24.3	▲35.2	▲4.7	▲37.0	▲17.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 21.9	▲ 9.7	▲ 28.0	▲ 21.9	▲ 60.9	▲ 51.2	△ 18.2	△ 20.7
建設	▲ 35.2	▲ 23.5	▲ 29.4	▲ 23.5	▲ 64.7	▲ 47.0	△ 11.7	△ 11.7
製造	▲ 9.5	▲ 4.7	▲ 28.5	▲ 4.7	▲ 61.9	▲ 47.6	△ 14.2	△ 14.2
卸・小売	▲ 11.1	±0.0	▲ 25.9	▲ 29.6	▲ 55.5	▲ 59.2	△ 3.7	△ 7.4
サービス	▲ 41.1	▲ 17.6	▲ 29.4	▲ 29.4	▲ 64.7	▲ 47.0	△ 52.9	△ 58.8

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 31.7	▲ 24.3	▲ 15.8	▲ 14.6
建設	▲ 23.5	▲ 35.2	▲ 23.5	▲ 11.7
製造	▲ 23.8	▲ 4.7	▲ 4.7	▲ 4.7
卸・小売	▲ 40.7	▲ 37.0	▲ 11.1	▲ 14.8
サービス	▲ 35.2	▲ 17.6	▲ 29.4	▲ 29.4

【平成19年11月の業況についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.7(前月水準▲22.5)となり、マイナス幅が▲9.2ポイント拡大した。

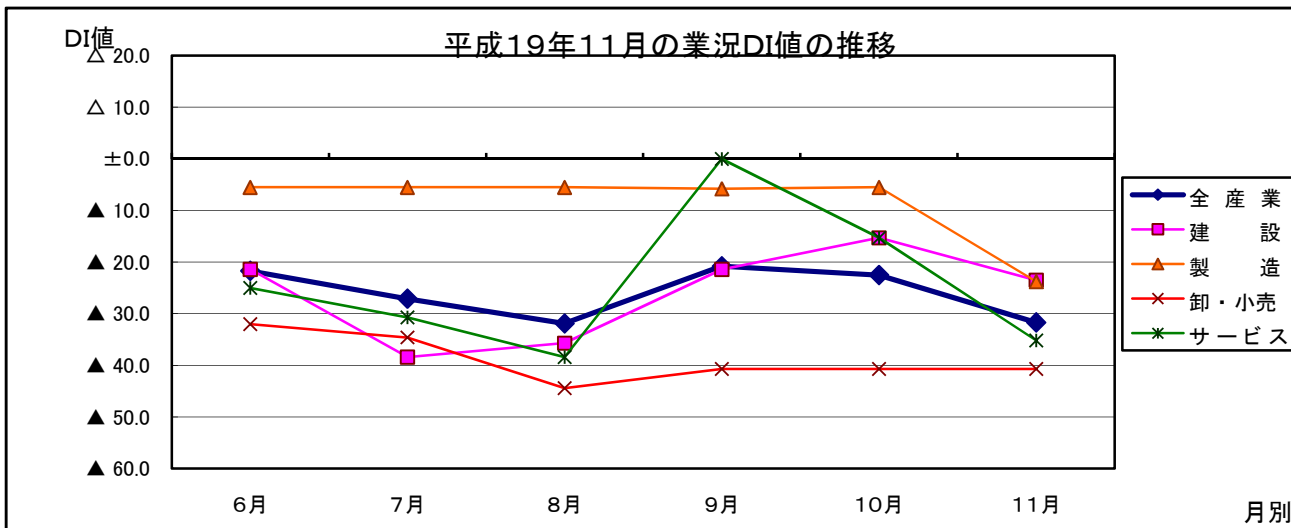
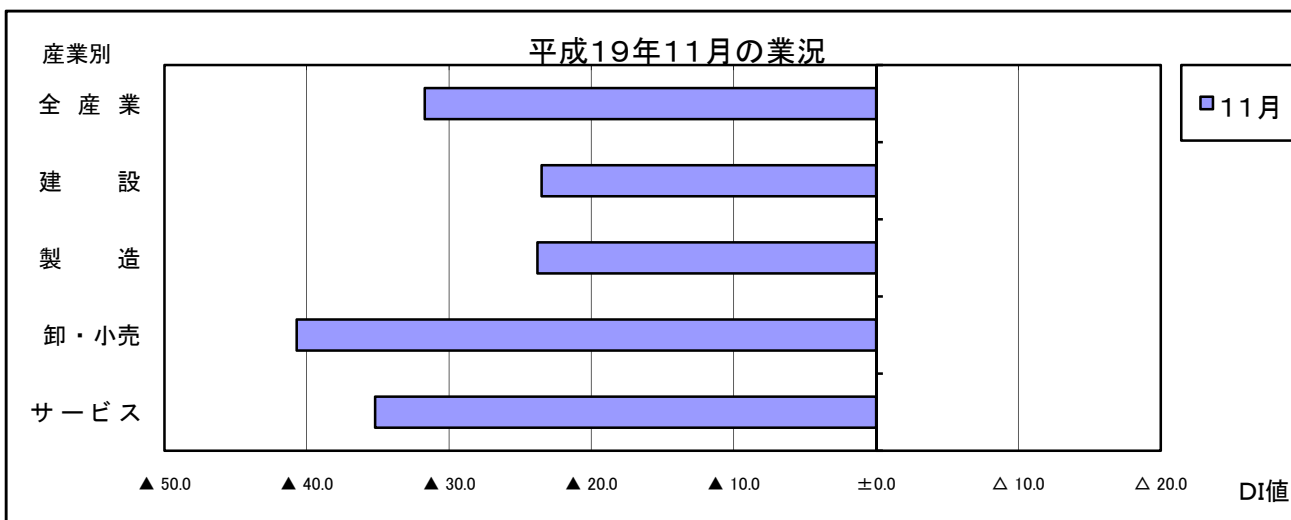
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、卸小売業▲40.7(同▲40.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲35.2(同▲15.3)、製造業▲23.8(同▲5.5)、建設業▲23.5(同▲15.3)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.3(前月水準▲12.6)となり、マイナス幅が▲11.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲4.7(同△5.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲35.2(同▲15.3)、卸小売業▲37.0(同▲22.2)、サービス業▲17.6(同▲15.3)であり、全産業でマイナス幅が拡大する見通しである。

平成19年11月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲21.7	▲27.1	▲31.9	▲20.8	▲22.5	▲31.7	▲24.3(▲12.6)
建設	▲21.4	▲38.4	▲35.7	▲21.4	▲15.3	▲23.5	▲35.2(▲15.3)
製造	▲5.5	▲5.5	▲5.5	▲5.8	▲5.5	▲23.8	▲4.7(△5.5)
卸・小売	▲32.0	▲34.6	▲44.4	▲40.7	▲40.7	▲40.7	▲37.0(▲22.2)
サービス	▲25.0	▲30.7	▲38.4	±0.0	▲15.3	▲35.2	▲17.6(▲15.3)



【平成19年11月の売上についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.9(前月水準▲11.2)となり、マイナス幅が▲10.7ポイント拡大した。

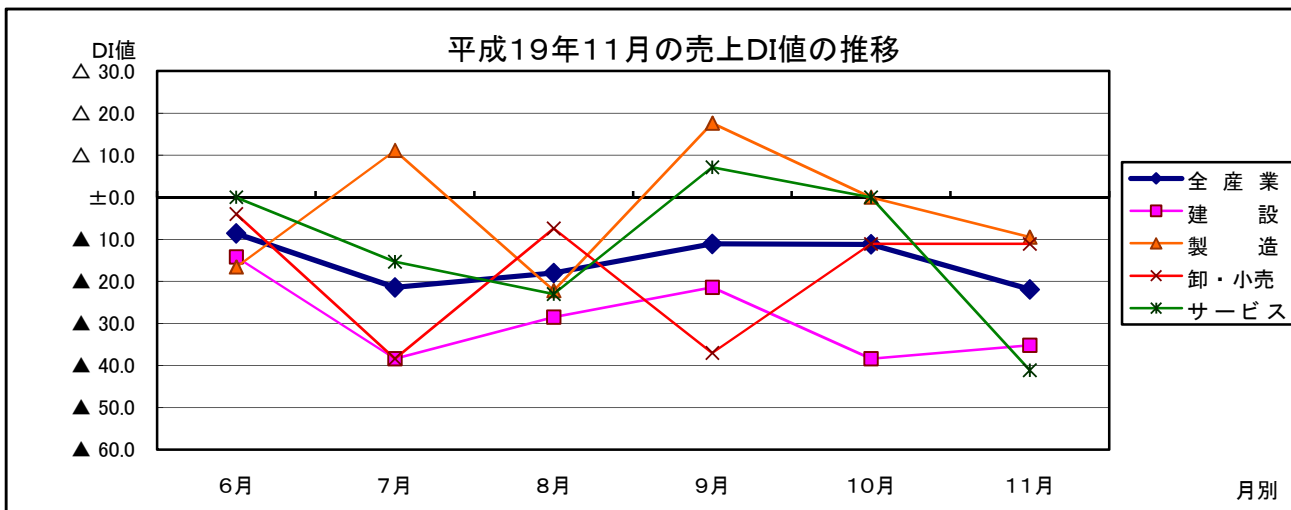
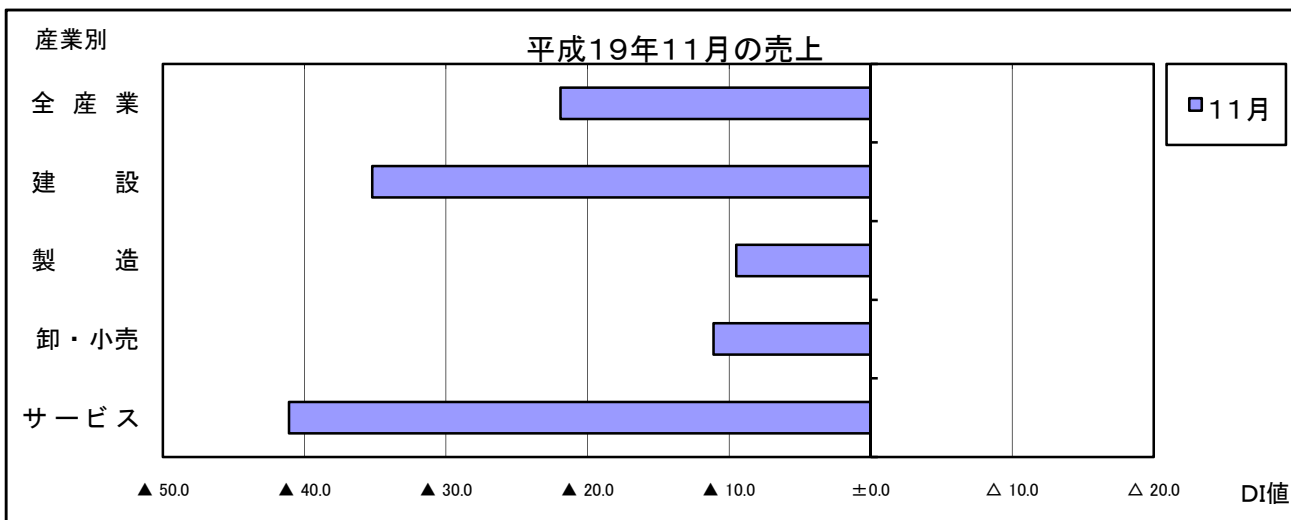
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲35.2(同▲38.4)である。変わらない業種は、卸小売業▲11.1(同▲11.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲41.1(同±0.0)、製造業▲9.5(同±0.0)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲41.1ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.7(前月水準△1.4)となり、マイナス幅が▲11.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業±0.0(同△11.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲23.5(同▲7.6)、サービス業▲17.6(同▲7.6)、製造業▲4.7(同±0.0)であり、全産業で悪化する見通しである。

平成19年11月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲ 8.6	▲ 21.4	▲ 18.0	▲ 11.1	▲ 11.2	▲ 21.9	▲ 9.7 (△ 1.4)
建設	▲ 14.2	▲ 38.4	▲ 28.5	▲ 21.4	▲ 38.4	▲ 35.2	▲ 23.5 (▲ 7.6)
製造	▲ 16.6	△ 11.1	▲ 22.2	△ 17.6	±0.0	▲ 9.5	▲ 4.7 (±0.0)
卸・小売	▲ 4.0	▲ 38.4	▲ 7.4	▲ 37.0	▲ 11.1	▲ 11.1	±0.0 (△ 11.1)
サービス	±0.0	▲ 15.3	▲ 23.0	△ 7.1	±0.0	▲ 41.1	▲ 17.6 (▲ 7.6)



【平成19年11月の採算についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.0(前月水準▲25.3)となり、マイナス幅が▲2.7ポイント拡大した。

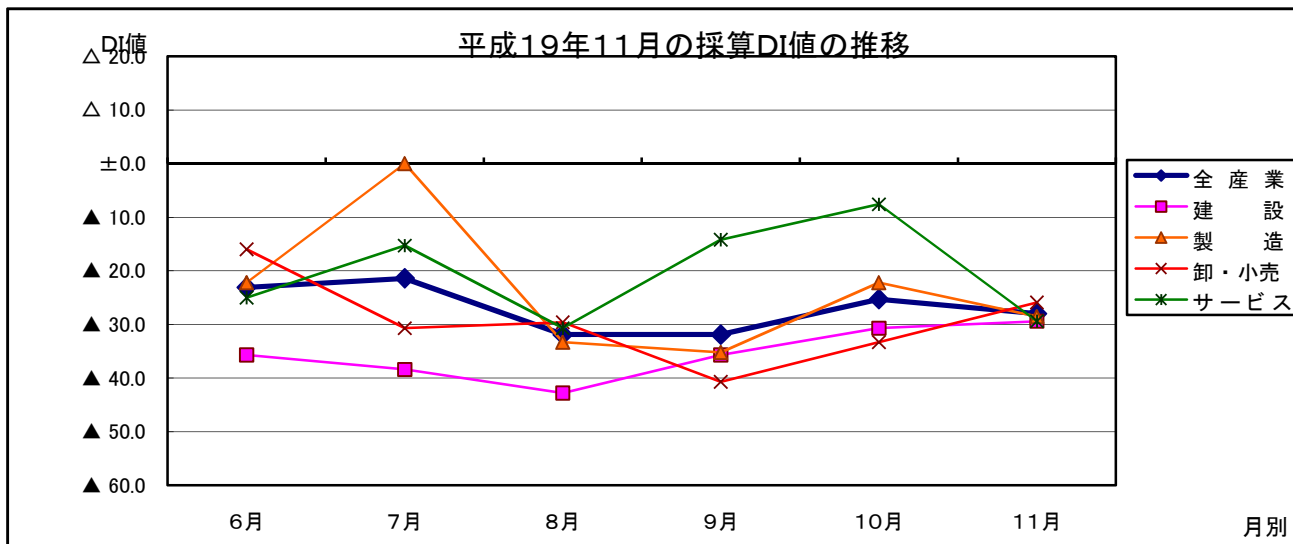
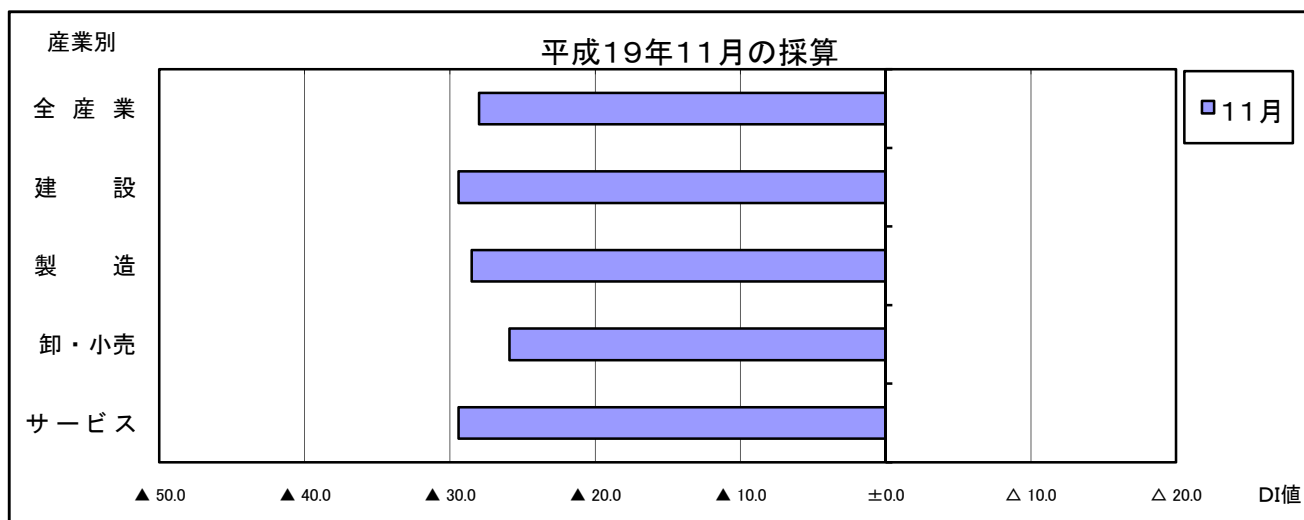
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲25.9(同▲33.3)、建設業▲29.4(同▲30.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲29.4(同▲7.6)、製造業▲28.5(同▲22.2)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲21.8ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.9(前月水準▲16.9)となり、マイナス幅が▲5.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲4.7(同▲22.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲29.4(同▲7.6)、卸小売業▲29.6(同▲18.5)、建設業▲23.5(同▲23.0)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲21.8ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成19年11月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲23.1	▲21.4	▲31.9	▲31.9	▲25.3	▲28.0	▲21.9(▲16.9)
建設	▲35.7	▲38.4	▲42.8	▲35.7	▲30.7	▲29.4	▲23.5(▲23.0)
製造	▲22.2	±0.0	▲33.3	▲35.2	▲22.2	▲28.5	▲4.7(▲22.2)
卸・小売	▲16.0	▲30.7	▲29.6	▲40.7	▲33.3	▲25.9	▲29.6(▲18.5)
サービス	▲25.0	▲15.3	▲30.7	▲14.2	▲7.6	▲29.4	▲29.4(▲7.6)



【平成19年11月の仕入単価についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲60.9(前月水準▲50.7)となり、マイナス幅が▲10.2ポイント拡大した。

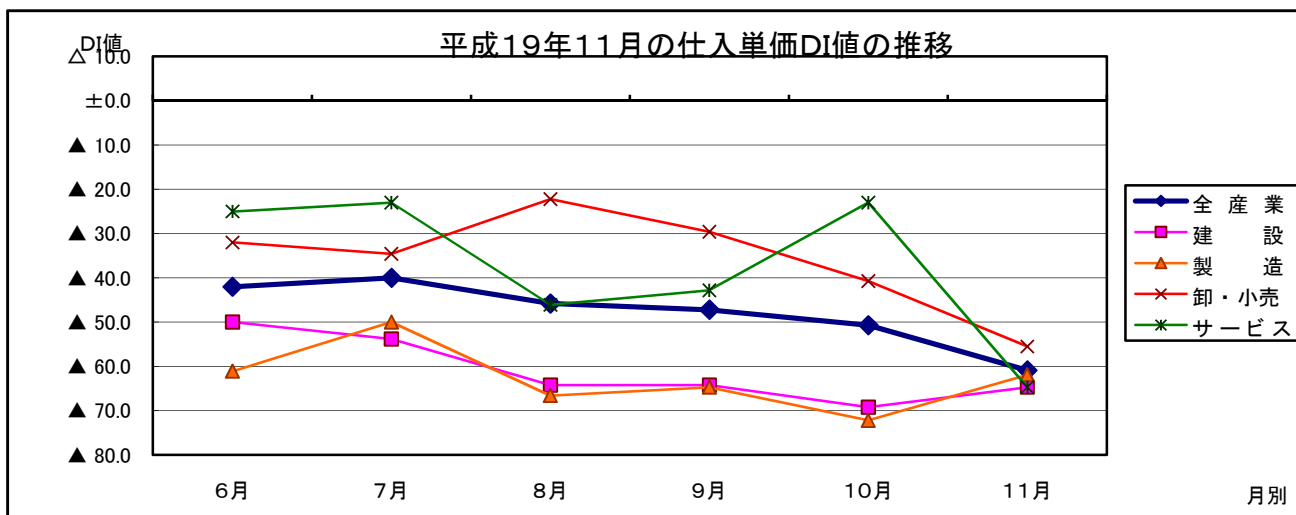
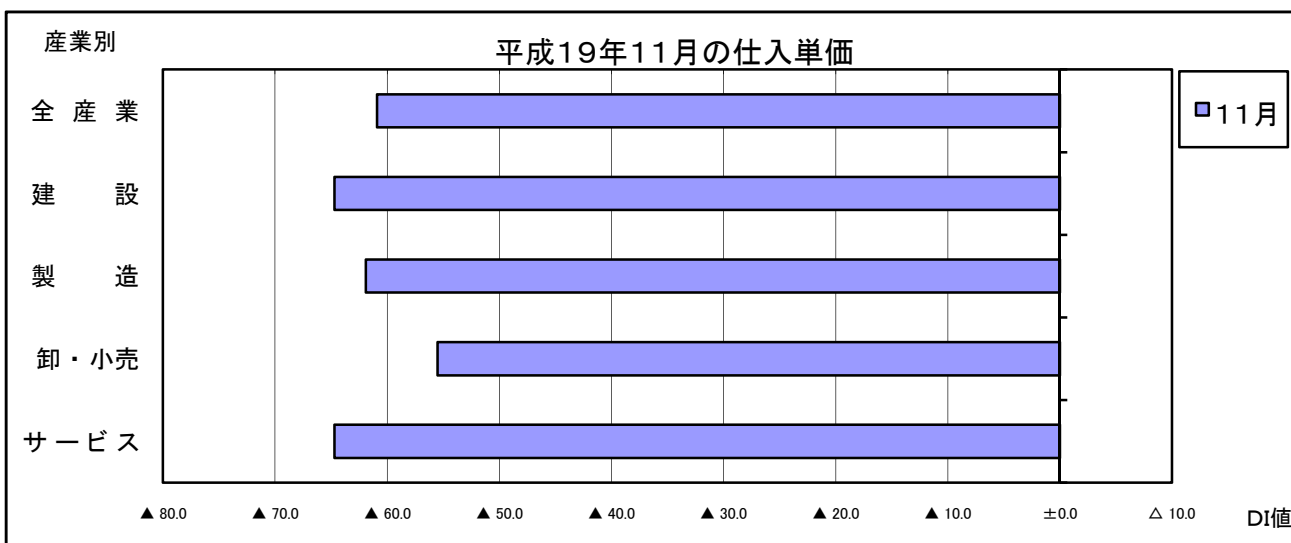
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲61.9(同▲72.2)、建設業▲64.7(同▲69.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲64.7(同▲23.0)、卸小売業▲55.5(同▲40.7)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲41.7ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲51.2(前月水準▲47.8)となり、マイナス幅が▲3.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲47.6(同▲66.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲59.2(同▲44.4)、サービス業▲47.0(同▲38.4)、建設業▲47.0(同▲46.1)である。

平成19年11月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲42.0	▲40.0	▲45.8	▲47.2	▲50.7	▲60.9	▲51.2(▲47.8)
建設	▲50.0	▲53.8	▲64.2	▲64.2	▲69.2	▲64.7	▲47.0(▲46.1)
製造	▲61.1	▲50.0	▲66.6	▲64.7	▲72.2	▲61.9	▲47.6(▲66.6)
卸・小売	▲32.0	▲34.6	▲22.2	▲29.6	▲40.7	▲55.5	▲59.2(▲44.4)
サービス	▲25.0	▲23.0	▲46.1	▲42.8	▲23.0	▲64.7	▲47.0(▲38.4)



【平成19年11月の従業員についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△18.2(前月水準△12.6)となり、プラス幅が△5.6ポイント拡大した。

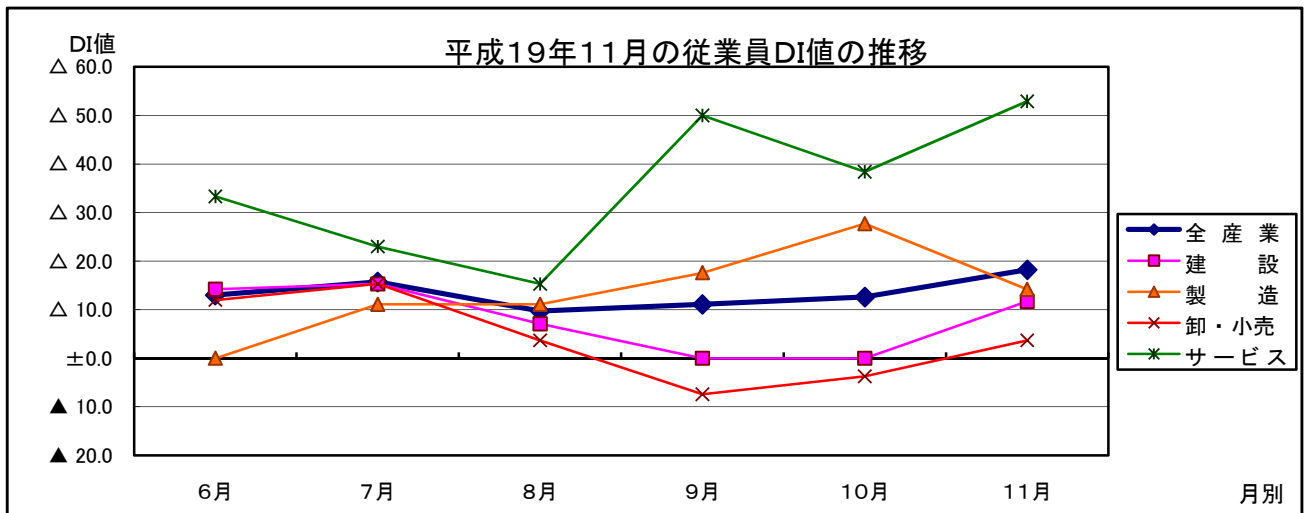
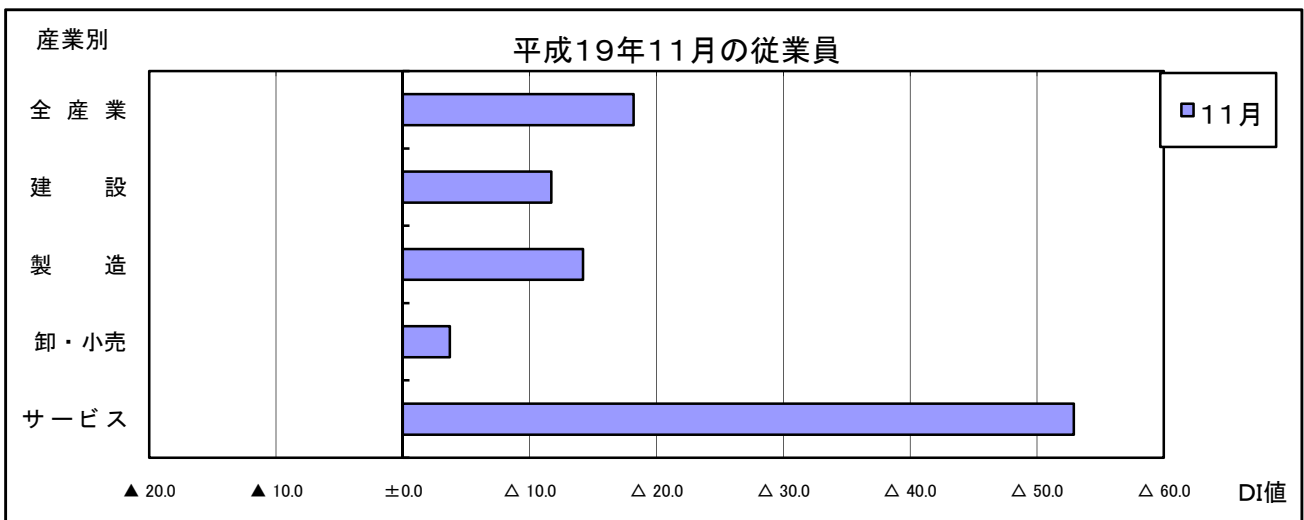
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△52.9(同△38.4)、建設業△11.7(同±0.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、卸小売業△3.7(同▲3.7)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業△14.2(同△27.7)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、△20.7(前月水準△14.0)となり、プラス幅が△6.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△58.8(同△38.4)、卸小売業△7.4(同±0.0)である。特に、サービス業はプラス幅が△20.4ポイントと大幅に拡大する見通しである。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△11.7(同▲7.6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△14.2(同△33.3)である。

平成19年11月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	△13.0	△15.7	△9.7	△11.1	△12.6	△18.2	△20.7(△14.0)
建設	△14.2	△15.3	△7.1	±0.0	±0.0	△11.7	△11.7(▲7.6)
製造	±0.0	△11.1	△11.1	△17.6	△27.7	△14.2	△14.2(△33.3)
卸・小売	△12.0	△15.3	△3.7	▲7.4	▲3.7	△3.7	△7.4(±0.0)
サービス	△33.3	△23.0	△15.3	△50.0	△38.4	△52.9	△58.8(△38.4)



【平成19年11月の資金繰りについての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.8(前月水準▲11.2)となり、マイナス幅が▲4.6ポイント拡大した。

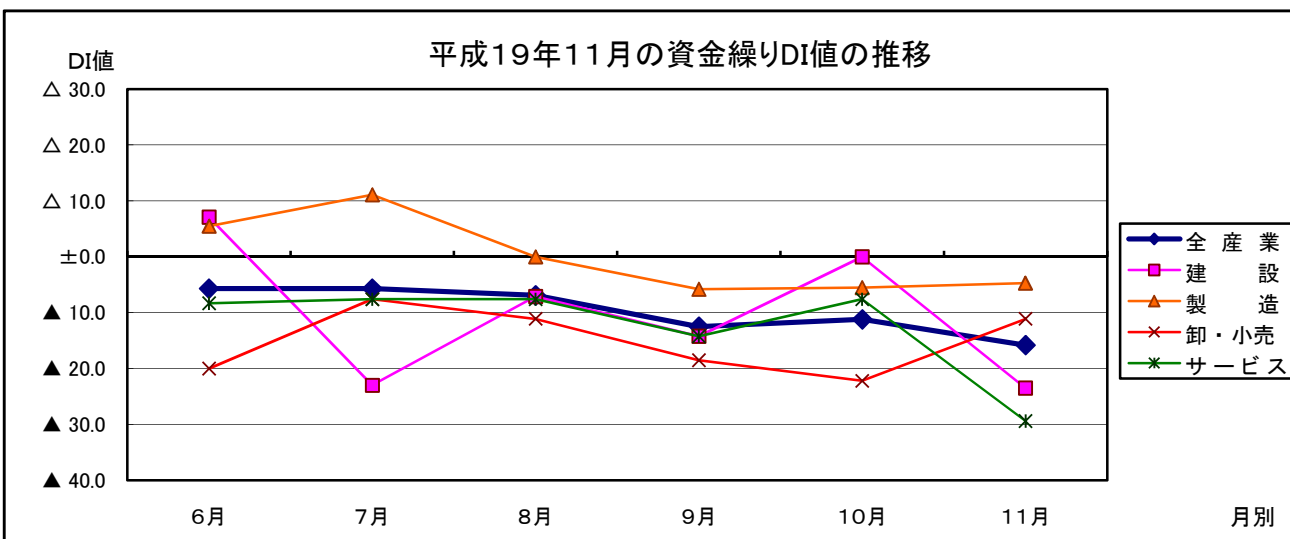
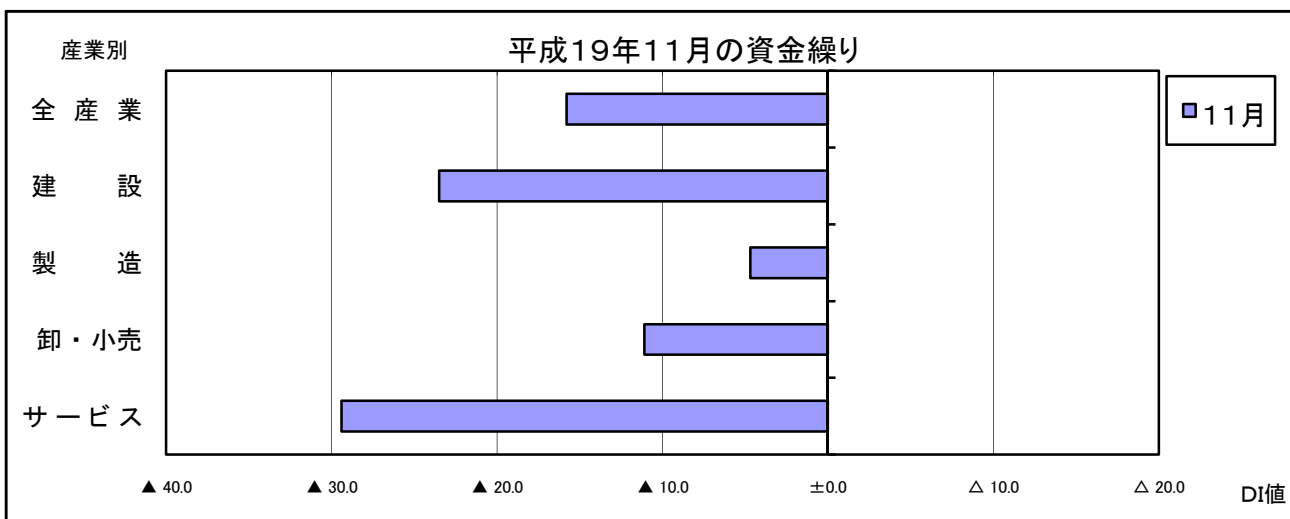
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲11.1(同▲22.2)、製造業▲4.7(同▲5.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲23.5(同±0.0)、サービス業▲29.4(同▲7.6)で、建設業はマイナス幅が▲23.5ポイント、サービス業はマイナス幅が▲21.8ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.6(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が▲4.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲4.7(同▲5.5)である。変らない見通しの業種は、卸小売業▲14.8(同▲14.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲11.7(同±0.0)、サービス業▲29.4(同▲23.0)である。

平成19年11月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成19年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲ 5.7	▲ 5.7	▲ 6.9	▲ 12.5	▲ 11.2	▲ 15.8	▲ 14.6 (▲ 9.8)
建設	△ 7.1	▲ 23.0	▲ 7.1	▲ 14.2	±0.0	▲ 23.5	▲ 11.7 (±0.0)
製造	△ 5.5	△ 11.1	±0.0	▲ 5.8	▲ 5.5	▲ 4.7	▲ 4.7 (▲ 5.5)
卸・小売	▲ 20.0	▲ 7.6	▲ 11.1	▲ 18.5	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 14.8 (▲ 14.8)
サービス	▲ 8.3	▲ 7.6	▲ 7.6	▲ 14.2	▲ 7.6	▲ 29.4	▲ 29.4 (▲ 23.0)



【平成19年11月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	民間工事物件は出て来ているが予算・積算の差異が大きい。どれが本当の値段なのか？建築確認・構造計算書の確認の遅れ、どうして？9月の工事がまだその為に工事全体の工程を狂わしている。	・民間工事増加 ・建築確認申請問題	一般土木建築工事業
	年末にかけての調整を慎重にすべきところですが、各現場とも遅れが出ていて集中しそうな気配です。	・工期遅延 ・年末工事集中	板金・金物工事業
	車両台数が多い為ガソリンの値上げにより経費増大、それに伴い仕入単価等も値上がりしている物がありますので、これからの利益確保は難しい問題と考えています。	・ガソリン値上げ ・経費増加 ・仕入コスト	家庭用機械器具小売業
	材料の値上がり、ガソリンの値上がり、売上の減少、大変厳しい状況が続いている	・仕入コスト ・ガソリン値上げ ・売上減少	電気工事業
製造	原油価格高騰による原材料の上昇が続いているが製品価格に転嫁できない。	・原油高騰 ・仕入コスト ・価格転嫁	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	原材料、燃料等のコストアップは避けられないが何とか一部価格転嫁で対応。	・仕入コスト ・価格転嫁	その他の鉄鋼業
	ユニックハウスの出荷は建築確認遅れの影響を一部受けている	・建築確認申請問題	建設用・建築用金属製品製造業(製缶板金属を含む)
	エレベータ業界は引き続き建築確認の厳格化により、基準法改正により連続して低下。変化なし。	・建築確認申請問題	その他の設備工事業
	展示会に出店したが、前回(2年前)と比較して展示会入場者総数は同じであるが展示内容が良かったのか小間入場者は増え顧客の反応も良かった。SUS材料関係の市況が下がってきた割には簡単に納入単価下がらない。材料業者の手持在庫があるためとのこと。	・展示会好調 ・仕入コスト	その他の機械・同部分品製造業
	山洋電気(株)長野県上田に工場増強。投資額70億円。		電子部品・デバイス製造業
	現在は建築基準法改正前の仕事が継続しているが、これから改正の影響が大きく出てくる	・建築確認申請問題	生コンクリート製造業
	柏技術開発センターの増改築を計画していましたが、近隣の研究施設を取得することとなり、現在その効果的な活用方法を検討中です。	・研究施設取得	その他の化学工業
卸小売	都内に話題を集める商業施設が次々とオープンしており、柏地域の商業者としてはその影響が懸念されます。対ユーロの円相場や原油価格の上昇による仕入単価への影響が徐々に始まっています。この先3ヶ月ではやや顕著になる可能性があります。	・都内商業施設開店 ・ユーロ高 ・仕入コスト	百貨店
	11月30日(金)に全館完成グランドオープンいたします。「焼きたてのパンの店」が新規に開店いたします。	・グランドオープン	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	見通しは最近の寒気で野菜の出回りが良く、微増傾向であります。果実はみかん・りんごを中心に前年より入荷増しているが、食味はバラツキの状況でりんごは小玉傾向、単価安も予想されます。今後は歳暮と年末に向けての対策として、消費は低迷だが売り込みに努力し、販路拡大を図りた	・天候の影響 ・野菜入荷増 ・果実入荷増・単価安 ・年末商戦	食料・飲料卸売業
多岐に渡って原材料が値上げ	・仕入コスト	菓子・パン小売業	

【平成19年11月の業種別業界内トピックス】

	<p>度重なる原油高騰のため 11月から価格改正があり、今月は資金繰りが少し良でも仕入価格は毎月上昇し続けるため、良はほんの一瞬。ぬか喜びにすぎない。だが業界人の顔色がどことなく暗く元気がない。あまりにも取り巻く環境の変化が厳しすぎるため。でも、人前では明るくふるまっている、仏頂面では人が 今月よりステーションモール店の売場減少のため、売上高減少で苦戦が続く 気温の低下とともに堅調に推移しているが、12月に入ると、早々に冬物バーゲンをスタートさせる量販店もあり、利益の確保が難しくなっている。 11月度は初旬は例年より気温が高めだったことから、主力の婦人服を中心に靴業種などの動きが鈍かった。2週目以降、入店客数が2桁伸長する日も出てきたことから、売上高も伸びをみせた。14日からは「2007Christmas LIVE LAUGH LOVE」フェアを開催、館内装飾やイベントでクリスマスを演出し、館全体を盛り上げ購買に繋げていく。 食品の偽造発覚が収まらないと安定した売上は望めないのが現状だと思います。燃料、包装資材の高騰に伴い食品加工品が11月より各メーカーがいっせいに値上げ、中小企業は販売価格に転嫁できず採算が悪化してきます。 原材料高騰を理由にメーカーの値上げ圧力は依然として続き売値に転嫁できず苦慮している。販売業界は売上低迷から脱却できずにいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕入コスト ・価格転嫁 ・仕入コスト ・資金繰り ・売場縮小 ・売上減少 ・冬物バーゲン ・天候の影響 ・クリスマス商戦 ・食品偽造 ・仕入コスト ・価格転嫁 ・採算悪化 ・仕入コスト ・価格転嫁 ・売上低迷 	<p>燃料小売業(ガソリンスタンド含まず) 燃料小売業(ガソリンスタンド含まず) 書籍・文房具小売業 その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの) 各種商品小売業 食肉小売業 塗料卸売業</p>
サービス	<p>11月に入りクリスマスの予約が増えてきました。 七五三のお客様で土日祝日は忙しいが平日の売上が少ないようだ 飲食関係全体が落ちている。 宴会…会議・展示会苦戦、宴会順調。宿泊…スポーツ団体宿泊。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス商戦 ・七五三 ・飲食店不調 ・会議、展示会苦戦 ・宴会好調 ・宿泊好調 	<p>食堂・レストラン 食堂・レストラン 喫茶店 ホテル</p>
	<p>深刻な人手不足問題、それにかかる広告のたび重なる費用。賃金の値上げ、現在いる人のベースアップでの引き止めなど。鯉節や粉の値上げ、燃料の値上げ。これからまた厳しい状況が続いて来るので個人店の商売のやりにくさを感じています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足 ・広告費増加 ・人件費増加 ・仕入コスト 	<p>そば・うどん店</p>
	<p>今回初めての調査票でしたが、正直、開業以来過去最悪の11月です。飲食業(居酒屋)。お客様の最初の注文における会話「とりあえず飲み物いかがしますか？」以前は「とりあえずビール」で皆様おなじ飲み物で「乾杯！」でしたが、最近個々の好みが多様になった。 新規の開業者が増加、競争は激化している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店不調 ・好みの多様化 ・同業増加 ・競争激化 	<p>酒場・ビヤホール 獣医業</p>

【平成19年11月の多い景気キーワード】

◎仕入・コスト上昇

- ・ 車両台数が多い為ガソリンの値上げにより経費増大、それに伴い仕入単価等も値上がりしている物がありますので、これからの利益確保は難しい問題と考えています。
- ・ 材料の値上がり、ガソリンの値上がり、売上の減少、大変厳しい状況が続いている。
- ・ SUS材料関係の市況が下がってきた割には簡単に納入単価下がらない。材料業者の手持在庫があるためとのこと。
- ・ 対ユーロの円相場や原油価格の上昇による仕入単価への影響が徐々に始まっています。この先3ヶ月ではやや顕著になる可能性があります。
- ・ 多岐に渡って原材料が値上げ
- ・ 度重なる原油高騰のため
- ・ 11月から価格改正があり、今月は資金繰りが少し良でも仕入価格は毎月上昇し続けるため、良はほんの一瞬。ぬか喜びにすぎない。
- ・ 深刻な人手不足問題、それにかかる広告のたび重なる費用。賃金の値上げ、現在いる人のベースアップでの引き止めなど。経節や粉の値上げ、燃料の値上げ。これからまた厳しい状況が続いて来るので個人店の商売のやりにくさを感じています。

◎価格転嫁

- ・ 原油価格高騰による原材料の上昇が続いているが製品価格に転嫁できない
- ・ 原材料、燃料等のコストアップは避けられないが何とか一部価格転嫁で対
- ・ 11月から価格改正があり、今月は資金繰りが少し良でも仕入価格は毎月上昇し続けるため、良はほんの一瞬。ぬか喜びにすぎない。
- ・ 燃料、包装資材の高騰に伴い食品加工品が11月より各メーカーがいつせいに値上げ、中小企業は販売価格に転嫁できず採算が悪化してきます。
- ・ 原材料高騰を理由にメーカーの値上げ圧力は依然として続き売値に転嫁できず苦慮している。販売業界は売上低迷から脱却できずにいる。

◎建築確認申請問題

- ・ 民間工事物件は出て来ているが予算・積算の差異が大きい。どれが本当の値段なのか？建築確認・構造計算書の確認の遅れ、どうして？9月の工事がまだその為に工事全体の工程を狂わしている。
- ・ ユニクハウスの出荷は建築確認遅れの影響を一部受けている
- ・ エレベータ業界は引き続き建築確認の厳格化により、基準法改正により連続して低下。変化なし。
- ・ 現在は建築基準法改正前の仕事が継続しているが、これから改正の影響が大きく出てくる











平成19年11月のCCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲31.7に対し、「CCI-LOBO」が▲36.1で、マイナス幅が4.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、10ポイント以上良い業種は、建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・サービス業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.9に対し、「CCI-LOBO」が▲27.7で、マイナス幅が5.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、10ポイント以上良い業種は、建設業・卸小売業。「柏の景気」の方が10ポイント以上悪い業種は、サービス業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.0に対し、「CCI-LOBO」が▲35.6で、マイナス幅が7.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が全業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲60.9に対し、「CCI-LOBO」が▲39.8で、マイナス幅が21.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種で悪くなっており、10ポイント以上悪い業種は、建設業・卸小売業・サービス業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△18.2に対し、「CCI-LOBO」が▲0.8で、プラス幅が19.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.8に対し、「CCI-LOBO」が▲22.2で、マイナス幅が6.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業。

平成19年11月の柏の景気天気図









柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 31.7	 23.5	 23.8	 40.7	 35.2
CCI LOBO	 36.1	 46.8	 29.2	 36.0	 32.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 21.9	 35.2	 9.5	 11.1	 41.1
CCI LOBO	 27.7	 45.2	 18.0	 26.4	 25.8

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 28.0	 29.4	 28.5	 25.9	 29.4
CCI LOBO	 35.6	 50.0	 33.7	 31.4	 33.1

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 60.9	 64.7	 61.9	 55.5	 64.7
CCI LOBO	 39.8	 47.4	 54.4	 29.9	 35.2

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 18.2	 11.7	 14.2	 3.7	 52.9
CCI LOBO	 0.8	 15.5	 ±0.0	 4.5	 1.8

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 15.8	 23.5	 4.7	 11.1	 29.4
CCI LOBO	 22.2	 34.5	 19.4	 17.1	 22.0

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(11月の調査結果のポイント)

調査期間：平成19年11月20日～26日

調査対象：柏市内113事業所及び組合にヒアリング、回答数82

柏市の業況

業況DIは三ヶ月連続で悪化、再びマイナス20台へ

十一月の全産業合計のDIは、前年同月比ベース、以下同じに、三二・七、前月水準三二・五となり、マイナス幅が九・一ポイント拡大した。業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、卸小売業四〇・七、同、四〇・七である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業三二・一、同、一五・三、製造業一三・八、同、五・五、建設業一三・五、同、一五・三である。

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	21.7	21.4	5.5	32.0	25.0
7月	27.1	38.4	5.5	34.6	30.7
8月	31.9	35.7	5.5	44.4	38.4
9月	20.8	21.4	5.8	40.7	±0.0
10月	22.5	15.3	5.5	40.7	15.3
11月	31.7	23.5	23.8	40.7	35.2
見通し	24.3	35.2	4.7	37.0	17.6

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【建設業】では、引き続き「建築確認・構造計算書の確認の遅れの為に全体の工程を狂わしている」（一般事業）といった建築確認申請の影響の声を、「ガソリンの値上げにより経費増大、それに伴い仕入単価等も値上がりしている」と、これからの利益確保は難しい問題である」（住宅設備工事業）といった仕入・コスト上昇の声を多く寄せられている。その他、「民間工事物件は出て来ているが予算・積算の差異が大き」（一般事業）との声や、「年末にかけての調整を慎重にすべきところだが、各現場とも遅れが出ていて集中しそうな配」（板金事業）といった年末事業集中の声を寄せられている。

【製造業】では、「ユニットハウスの出荷は建築確認遅れの影響を一部受けている」（建設・建築用金属製品製造業）といった建築確認申請の影響の声を、「原材料、燃料等のコストアップは避けられないが何とか一部価格転嫁で対応」（鉄粉業）といった仕入・コスト上昇の声を多く寄せられた。また、「展示会に出店したが、前回と比較して展示会入場者総数は同じであるが小間入場者は増え顧客の反応も良かった」（機械・同部品製造業）、「センタの増改築を計画していたが、近隣の研究施設を取得することとなり、現在その効果的な活用方法を検討中」（ロボット製造業）といったコメントも寄せられている。

【卸小売業】では、「初旬は気温

が高めだったことから、主力の婦人服を中心に靴業種などの動きが鈍かったが、一週目以降は入店客数が二桁伸びる日もあり、売上高も伸びをみせた」（各種商品小売業）との好調の声を寄せられているが、「度重なる原油高騰」（燃料小売業）との声や、「都内に話題を集める商業施設が次々とオープンしており、その影響が懸念される」（百貨店）、「今月より売場縮小のため、売上高減少で苦戦が続く」（書籍小売業）といった厳しい声を寄せられている。また、「十月に入ると、早々に冬物バーゲンをスタートさせる量販店もあり、利益の確保が難しくなっている」（各種商品小売業）といったバーゲン早期化の声や、「食品の偽造発覚が収まらな」と安定した売上は望めない」（食肉小売業）といった食品偽装の声を寄せられた。その他、「最近の寒気で野菜の出回りが良く、微増傾向。果実はみかん・りんごを中心に前年より入荷が増している。食味はバラツキの状況で小玉傾向。単価安も予想される」（食料卸売業）、「十一月二〇日に全館完成グランドオープン」（総合スーパー）とのコメントが寄せられている。

【サービス業】では、「十一月に入りクリスマスまでの予約が増加」（レストラン）、「会議・展示会苦戦、宴会順調。スポーツ団体宿泊あり」（ホテル）との声の一方、「七五三のお客様で十日祝日は忙しいが平日の売上が少ない」（日本料理）、「飲食関係全体が

落ちて

落している」（喫茶店）、「人手不足問題、それにかかる生産費用、賃金の値上げ、現在いる人のベアスアップでの引き止めの懸節・燃料の値上げ。厳しい状況が続いて来るので個人店の商売のやりにくさを感じている」（そば店）、「新規の開業者が増加、競争激化」（獣医療）といった厳しい声の他、「最近注文において、個々の好みが多様になった」（居酒屋）との声が寄せられている。

十二月の景気キーワード

仕入・コスト上昇

各業種から、「材料の値上がり、ガソリンの値上がり、売上の減少、大変厳しい状況が続いている」（電気工事業）、「SSU材料関係の市況が下がってきた割には簡単に納入単価下からない」（機械・同部品製造業）、「十一月から価格改正があり、今月は資金繰りが少し良でも仕入価格は毎月上昇し続けるため、ぬか喜びにすぎない」（燃料小売業）、「多岐に渡って原材料が値上げ」（菓子小売業）との厳しい声や、「対一口の円相場や原油価格の上昇による仕入単価への影響が出始めており、この先三ヶ月ではやや顕著になる可能性がある」（百貨店）といった先行きを懸念する声が寄せられている。

避けられないが何とか一部価格転嫁で対応」（鉄粉業）といった声も寄せられているが、「原油価格高騰による原材料の上昇が続いているが製品価格に転嫁できない」（工業用ゴム製品製造業）、「燃料、包装資材の高騰に伴い食品加工品が十一月より各メーカーが一斉に値上げ、中小企業は販売価格に転嫁できず採算が悪化」（食肉小売業）、「原材料高騰を理由にメーカーの値上げ圧力は依然として続き、売値に転嫁できず苦慮している。販売業界は売上低迷から脱却できずにいる」（塗料卸売業）といった価格転嫁に対応できない深刻な声が多く寄せられた。

建築確認申請問題

「エレベータ業界は引き続き建築確認の厳格化、基準法改正により連続して低下。変化なし」（設備工事業）、「現在は建築基準法改正前の仕事が継続しているが、これから改正の影響が大きくなる」（生コンクリート製造業）との声が建設・製造業から寄せられている。

CCI LOBORの比較

全産業合計では、「柏の景気」が三二・七に対し「CCI LOBOR」が三二・一で、マイナス幅が四・四ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、一〇ポイント以上良い業種は、建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・サービス業

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(11月速報)

調査期間：平成19年11月16日～22日

調査対象：全国の407商工会議所が2578業種組合等にヒアリング調査を実施。

全国の業況

業況DIは三カ月連続で入単価DIは九カ月連続で悪化

十一月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、前月水準(三四・九)よりマイナス幅が一・二ポイント拡大して三六・一となり、三カ月連続で拡大した。

産業別の業況DIは、建設サービスでマイナス幅が縮小したものの、他の三業種で拡大した。

【建設業】からは、「昨年に比べ、今年は受注が順調」(電気工事業)との声がある一方、「公共工事の減少、原油価格の高騰により、採算確保が困難な状況」(一般工業業)、「建築基準法改正の影響により、着工件数・新築工事の減少を懸念」(電気工事業)との声が寄せられている。

【製造業】からは、「自動車関連を中心に、設備の受注が堅調」(自動車・附属品製造業)との声がある一方、「原材料の値上げ分を販売価格に転嫁できず、収益の減少が拡大傾向」(金物類製造業)、「建築基準法の改正により、受注の減少に加え、売上が大幅に悪化」(製材木製品製造業)との声も寄せられている。

【卸売業】からは、「学校行事等の予約増加により、売上高は前年並みに回復」(各種商品卸売業)との声がある一方、「原油価格の高騰による経費の増加を販売価格に転嫁できず、厳しい状況」(建築材料卸売業)、「仕入価格に加え、運送費など物流コストも上昇傾向」(各種商品卸売業)との声も寄せられている。

【小売業】からは、「気温の低下により冬物衣料・暖房用品の売上が好調」(百貨店)との声がある一方、「仕入れ価格の上昇に対し、販売価格は据え置きのため、採算は厳しい見込み」(商店街)、「ガソリン・灯油や生活用品の値上げによる影響で、消費者の買い控えを感じる」(商店街)との声が寄せられている。

【サービス業】からは、「観光客の増加により、売上は良好」(旅館)との声がある一方、「暖房費の支出に原油価格の高騰が重なり、収益確保は厳しい見込み」(食堂・レストラン)、「食料品価格の上昇で採算が悪化」(その他の一般飲食店)との声も寄せられている。

十一月のキーワード

悪化への懸念
各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が多く寄せられている。

建設・製造からは、「仕入価格の値上がりに加え、原油価格高騰の影響による今後の採算の悪化を懸念」(帯広・一般工業業)、「厳しい経営状況に加え、通常、年末年始はさらに悪化の見通し」(水俣・製材木製品製造業)との声が寄せられている。また、卸売・小売サービスからも、「大型商業施設のオープンなど競合店が増加し、今後も厳しい状況が続く見込み」(鹿児島・百貨店)、「原油価格が高騰する一方、冬期は暖房等に石油を多く消費するため、収益が圧迫される見込み」(酒田・旅館)、「昨年同時期に比べ来客数が減少、今後、更なる悪化を懸念」(土佐清水・食堂・レストラン)といったコメントが寄せられている。

仕入コスト上昇
また、各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。建設・製造からは、「原材料価格の値上がりに対し、受注金額の値上げが困難なため、採算が悪化」(中野・一般事業)、「現在は売上の好調により仕入コストの上昇分を吸収できているが、売上が減少した場合の影響を懸念」(横浜・輸送用機器製造業)との声が寄せられている。また、卸売・小売サービスからも、「食料品を中心にメーカーからの値上げ要

請に加え、包装材料等の経費も増加」(札幌・百貨店)、「食料品や消耗品の値上げが続き、価格転嫁を避けられない状況」(京都・旅館)といったコメントが寄せられている。

消費意欲の低下

さらに、原油価格の高騰に伴う各種商品の値上げに対する不安感から、消費者の購買意欲の低下による悪影響を挙げ、声も寄せられている。卸売からは、「食料品の値上げが続き、消費者の買い控え傾向が強まっている」(福島・農畜産水産物卸売業)、「小売からは、「家庭でのガソリン代・暖房費支出の上昇による、売上の減少を懸念」(船橋・百貨店)、「サービスからは、「原油価格の高騰により個人消費が低迷、宿泊数の確保は厳しい状況」(金沢・旅館)、「食料品価格等の上昇の影響から年末に向けての期待感薄い」(館山・食堂・レストラン)といったコメントが寄せられている。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
6月	▲29.5	▲46.0	▲23.4	▲39.4	▲26.5	▲24.5
7月	▲32.8	▲43.5	▲26.3	▲42.6	▲31.4	▲30.8
8月	▲32.0	▲44.3	▲23.5	▲48.4	▲31.1	▲27.9
9月	▲33.6	▲45.4	▲27.5	▲41.1	▲33.8	▲29.1
10月	▲34.9	▲47.2	▲27.0	▲44.3	▲33.8	▲33.0
11月	▲36.1	▲46.8	▲29.2	▲45.6	▲36.0	▲32.6
見通し	▲34.9	▲50.2	▲31.7	▲36.5	▲33.6	▲29.4

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI